

## 令和 7 年分 年末調整 変更点早わかりガイド

令和 7 年(2025 年)から適用される年末調整には、私たちの手取り額に直接影響する重要な変更が予定されています。昨年からの変更点をまとめました。

### I 2 年間限定で段階的控除！基礎控除の見直し

給与収入(合計所得金額)	【改正前】基礎控除額	【改正後】基礎控除額
～2,003,999 円(～132 万円)	480,000 円	950,000 円
～4,751,999 円(～336 万円)		880,000 円(※)
～6,655,556 円(～489 万円)		680,000 円(※)
～8,500,000 円(～655 万円)		630,000 円(※)
～25,450,000 円(～2,350 万円)		580,000 円

(※)改正後の基礎控除額 58 万円に令和 7 年、8 年の**2 年間限定で控除額が 30 万円、10 万円、5 万円が加算**されています。令和 9 年からは基礎控除額 580,000 円となります。

### II 55 万円から 65 万円に！給与所得控除の最低保証額の見直し

給与収入	【改正前】給与所得控除額	【改正後】給与所得控除額
～1,625,000 円	550,000 円	650,000 円
～1,800,000 円	給与収入 × 40% - 100,000 円	
～1,900,000 円	給与収入 × 30% + 80,000 円	

給与所得控除は給与所得者にとっての「必要経費」のようなもので、最低保証額が 55 万円から 65 万円に 10 万円引き上げられます。

### III 年収の壁が 123 万円に！扶養に入れる年収の上限が引き上げ

【改正前】扶養に入れる給与収入上限(合計所得金額)	【改正後】扶養に入れる給与収入上限(合計所得金額)
103 万円(48 万円)	123 万円(58 万円)

上記 I、II の改正に伴って、親族等が扶養控除等の対象となる年収の上限も 103 万円から 123 万円へ、20 万円引き上げられました。

### IV 年収の壁をちょっと超えてもセーフ？特定親族特別控除が新設

特定親族の給与収入(合計所得金額)	特定親族特別控除額
123 万円超 150 万円以下(58 万円超 85 万円以下)	630,000 円
150 万円超 155 万円以下(85 万円超 90 万円以下)	610,000 円
155 万円超 188 万円以下(90 万円超 123 万円以下)	510,000～30,000 円(収入金額が増えるごとに逡減)

特定親族とは、**年齢 19 歳以上 23 歳未満**で合計所得金額 123 万円(給与収入 188 万円)以下である同一生計親族をいいます。今年以降は、大学生の子が年 123 万円を超えてバイトで稼いでも、年 150 万円までなら親は 63 万円を所得額から差し引けます。また、子が年 150 万円を超えて稼いでも、控除額がすぐに 0 円になるわけではなく、段階的に控除額が減っていくしくみとなっています。

年末調整の際には「給与所得者の特定親族特別控除申告書(※)」を会社に提出する必要があります。

※給与所得者の基礎控除申告書、配偶者控除等申告書、所得金額調整控除申告書との兼用様式となります。